

Front mobile base 《フロントムーブベース》…鋼の移動要塞…

oldsnake

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

とある特殊な基地の日常の物語…

# 目次

プロローグ	1
とある野良人形の日記…	4

## プロローグ

とある地区跡…

銃痕が生々しくのこり、爆撃によるクレーター、もうどのような形か分からない人形宿舎。

鉄血の余りにも激しい侵攻により出来たばかりだった基地この地区はもう鉄血の支配下にあった。

こんな中、一際目立つ巨体な鋼の塊が押し進んでいた。

鉄血兵 side…

我々はこの地区を支配下に置き数ヶ月がたった。

G & amp ; Kもこの地区の奪還は諦めている筈だ…

しかしあんなバケモノが来るなんて想像が出来なかった。

ドドオオン!!

ズババババババ!!

「なんだあのデカブツ戦車は!?!」

「知らん! 早く応援部隊を要請しろ!」

「早くしろ! 全滅するぞ!」

その戦車、山の様に巨大。

ドイツのマウスなど比較にならない程の超重戦車。

巨大な砲を2門による圧倒的な破壊。

周りにはオートタレットによる掃射により鉄血兵達は押し込まれていた。

そして何より追い込まれていた理由は他にあった。

「なんだコイツ! 爆弾が効かない!?!」

「構わん! 足止めしろ!」

「効いている素ぶりすら見せないなんて! バケモノすぎよ!」

驚愕する鉄血兵達。

その巨大な見た目に見合う重厚で頑強な装甲は爆弾を物ともせず

以前と砲撃やオートタレットの掃射をしていき鉄血兵達は応援に期待するしかなかった。

??? side…

電子的な明かりの中、戦車の後部ハッチには戦術人形達がスタンバイしていた。

「眠い、だるい…」

「こらしつかりしろ。G11」

「あら、まだ眠いのかしらコネズミちゃん？なんとか出来る？G36」

「私にお任せを…」

G36はG11ほつぺに手をかけた。

「御覚悟を。」

「えっ？何？…ちよっ！」

そしてほつぺをチネった。

「ああア！痛い！分かったから！起きるから！」

その一言を聞いてスツと手を離れた。

「分かりました。」

ではそろそろ出撃なので準備してましよう。」

そしてアナウンスが鳴り出した。

『ハッチ開放まで30秒です。準備してください。』

緊張感溢れる30秒間。

その間はとても長く感じられる30尾だった。

そしてカウントダウンが始まった。

『5秒前

5

4

3

2

1

ハッチ開放します。』

鳴り響く警報音と共にハッチはゆっくりと開き戦場に突撃していった。

そしてk a rが指揮を取り始めた。

「MG5は後方から制圧射撃を！」

「任された！あの愚か者共を一人残らず倒すぞ！」

「G11は目に付いた鉄血の奴ら片っ端から倒して！」

「りよ〜か〜い」

「G36は私の援護をお願い出来るかしら？」

「畏まりました。ご主人様。」

そして殲滅戦は2時間であっけなく終わった。

## とある野良人形の日記…

○月△日 天気 晴

私達の基地を破壊され数ヶ月…

奴らが占領し始め食料はもう無い。

もう無理…生き残ったのは私だけ…

鉄血以外の誰かが読んでくれると信じて遺言書いとこ…

なんか凄く大きい戦車きた!?

ヤバイ!

なんの?!

あの戦車!

でも鉄血の奴らを砲撃やら機銃とかで倒してる!

よく見たらG&a m p;Kのロゴが入ってた!

やった!援軍ね!

鉄血の増援!?

あつ…爆弾だ…

盛大に爆破された…

流石にこれじゃ…

てっ?!爆弾が効いて無い!?

どんな装甲してるの!?

鉄血の増援を砲撃で吹っ飛ばした?!

あつ…なんか後ろが開いた

S RとM G、A R二人の部隊ね

あつ助けて下さい!

食料がないから拾ってもらわないとヤバイ!

助けて下さい!

あつ気づいてくれましたね

所属?この基地の所属でしたがこの有様で…

あつ…ありがとうございます!

○月△○日 天気 晴れ

いやゝ戦車丸ごと基地なんて凄いですね

しかも食堂とか娯楽スペースとかもある…

死んでいった仲間には申し訳ないですが満喫してます

いやゝ合成品の牛乳ですがいい物使ってますね

しかも何種類もあつて

なんかフタ開いていたのでコップで…

あつMG5さんこんにちは！

えっこれSVDさんの牛乳？

はあ?!嘘ですよね?!名前書いてませんし！

牛乳の底の方？

あつ…

こんな分かりにくい所に名前書かないでくださいよ！

朝から最悪です！

ロシアは敵です！

滅べばいいんです！

ドイツは味方ですけどロシアは滅んで欲しいです！

その時、SVDがドヤ顔で入ってきた

大丈夫だ、コップで飲んだんだろ？

言い訳ないじゃないですか！

今日は朝から最悪です！

た  
この後、私は気分が悪かったのでお気に入りの曲を聴く事にしまし

でも途中でkarさんとG36さんが部屋に入ってきてクレーム  
を言ってきました

うるさいから止めてください？



うるさいですか？

これがとてもいい曲だと思うけど…

確かに音が大き過ぎましたね

音を下げます

○月△△日 天気 曇

朝早くからSVDが謝りに来ました

分かりにくい所に名前書かいて悪かった。すまん？

横の方に書いて下さいよ！だからロシアは嫌いなんですよ！

それと朝から来ないでください！

えっ…仲間なんだから少しは仲良くしたいって？

でも…

アンタに気が合いそうな人がいるからって？

…仕方ないですね…分かりました

行きましょう

食堂に着いた私とSVDを待っていたのはモシン・ナガンさんでした

SVDがモシンナガンさんの事先輩と言ってる…

映画を観る事になり、SVDがDVDを選んで持ってきました

なぜウイ○ターウオー？

恨みでもあるの？

ふざけてるの?!

ウインター○オーなんで選んだの?!

横を見ると

モシン・ナガンが苦笑しています

映画が終わりモシン・ナガンさんと私は、

いいセンスだろ？とドヤ顔してるSVDにゲンコツをお見舞いしました